

霜害防止対策を

～尾上地区りんご現地講習会～

尾上基幹グリーンセンターは4月13日、尾上地区3カ所で行ったりんご現地講習会を開き、生産者合計30人が参加し、霜害への備えなどを確認した。

尾上基幹グリーンセンターの吹田聖子営農指導員は「ふじ」の発芽は平年より7日早いことを報告。開花は、今後の天候にもよるが平年より4日早い5月4日ごろの見込み。

今後の栽培の注意点として、生育ステージが進むと耐凍性が減少して霜害被害を受けやすくなることや、晴れの日が多いと放射冷却現象で朝方冷え込むため、霜害防止対策を万全にするよう呼び掛けた。

また、黒星病防除のため、散布間隔や散布量を守るよう呼びかけて指導した。



霜害防止対策で万全を呼び掛ける吹田指導員

高級品キヌサヤ 基準しっかりと

～キヌサヤ出荷説明会～

尾上青果センターは5月2日、平賀園芸センターでキヌサヤの出荷説明会を開き、生産者約30人が参加。出荷の規格や注意事項、今後の栽培管理などを確認した。

尾上青果センターの齋藤寿徳統括が出荷基準などを説明。「大きさをそろえ、出荷基準のものを出荷する。一人一人の品質基準のバラツキをなくして、市場からの銘柄確立と価格向上をめざしてほしい」と説明した。また、今後の管理として、病虫害防除のため、薬剤散布間隔を守るよう呼び掛けた。

県産キヌサヤは高級品として、市場では高値で取引されている。ハウスや露地栽培で11月いっぱい収穫。県内外の市場に1万ケース（1ケース1㍑）の出荷を計画する。



出荷基準を確認する生産者

桃早い摘蕾で大玉を

～桃栽培講習会～

もも生産協議会（倉内信一会長）は4月23日、平川市の村上幸雄さんの園地で桃の栽培講習会を開いた。生産者約30人が参加。高品質な大玉生産のため、今後の栽培の注意点などを学んだ。

中南地域県民局地域農林水産部農業普及振興室の福士泰永主幹が講師を務め、生育状況や今後の栽培などを話した。発芽は「あかつき」が平年より1日早い4月16日、「川中島白桃」が平年より3日遅い20日だった。「あかつき」など花粉が多く結実が良好な品種では、摘蕾を積極的に行い、「川中島白桃」など花粉が少ない品種では、結果枝の背面や基部など成らせない部分の花芽を落とすことと説明。「開花は貯蔵養分を使うので、早めに摘蕾することで大玉生産が期待できる」とポイントの説明と実演をした。



摘蕾を実践する講師の福士主幹（左）